

病院本館 (A棟)

階数 地上12階／地下1階  
 構造 鉄骨造、  
 一部コンクリート充填鋼管造、  
 一部鉄骨鉄筋コンクリート造  
 延床面積 約28,500㎡



2025年 B棟竣工 病院本館 全面開院 予定



大阪医科薬科大学病院

病院本館

	B棟	A棟
病棟	12F	
	11F	
	10F	
	9F	
	8F	
	7F	
	6F	
	5F	
外来	4F	
	3F	
	2F	
エントランス 総合受付 カフェスペース	1F	
放射線治療 薬剤 など	B1F	



私たちは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

大阪医科薬科大学病院

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号  
 電話：072-683-1221 (代)  
<https://hospital.ompu.ac.jp/>

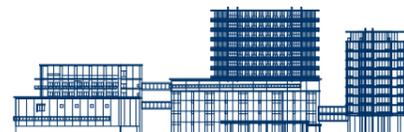


【病院本館のご紹介】

記載している情報は2022年7月現在のものです。



病院本館 A棟



# 三島医療圏の最後の砦として

# 数十年先の未来を見据えた

# スーパースマートホスピタル



学校法人 大阪医科薬科大学  
理事長 植木 實

2022年7月、病院新本館A棟が竣工・開院しました。これもひとえに、多くのステークホルダーの皆様のご支援とご協力のお陰と感謝申し上げます。

本法人は、2012年から大学病院全建替え事業を推し進めており、嚆矢として2016年に中央手術棟が竣工、「24時間、手術を断らない」をモットーに、いつでも緊急手術を行える体制を整えました。続いて、2018年に関西BNCT共同医療センターが竣工・開院し、最先端がん治療施設として多くのがん治療や治験などの症例を重ねています。その後、病院全体の電力、ガス、空調などを供給・管理する最新鋭の中央エネルギー棟の建築が進められ、2022年1月に完成し、既に稼働しております。

そして、病院新本館建築は当該事業の根幹を成すメインタワーであり、また、2027年に迎える大阪医科大学創立100周年の記念事業としても位置付けております。病院新本館A棟には、大阪府、高槻市をはじめ、茨木市、摂津市、島本町の運営する大阪府三島救命救急センターの三次救急部門の機能移転が行われました。これに伴い、三島二次医療圏の三次救急患者の治療は本大学病院が担うことになり、地域の一次、二次救急の患者に加え、直ちに救命処置や緊急手術、及び複数の診療科が関与する治療が必要な重症患者の治療に当たります。

現在、本大学病院には約350人の常勤医師と約270人の非常勤医師が勤務しており、救命救急の前線に対応に当たる救急医療部と総合診療科には30人余の医師を配置しています。本大学病院の救急医療部門は、この2つの科を中心に、全ての診療科が連携して24時間365日体制を維持し、救急搬送を原則断らない、応需率100%を目指してスタートしています。

本大学病院は、三島医療圏唯一の三次救急を担う大学病院として、また高度医療を提供する特定機能病院として、地域住民の皆様にご安心・安全な医療を提供して参ります。皆様におかれましては、今後ともよろしくご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2022年7月1日、病院新本館A棟が開院いたしました。最新設備を導入した12階建てで、その1階には三次救急機能を有した救命救急センターが新設されました。最上階の12階には先進的な「がん」に特化したがん医療総合センター(化学療法センター・緩和ケアセンター・がん相談支援センター)、がんゲノム医療管理室、遺伝カウンセリング室、プレシジョン・メディスンセンターが配置されています。そのほか、病棟リハが有効な循環器内科・整形外科・脳神経外科の各病棟内にはリハビリテーション室が設置されています。2016年3月に開院した中央手術棟では、医師・薬剤師・看護師・臨床工学技士・中央材料室・物流・施設・事務によるチーム医療が実践され、24時間断らない手術室を運営しています。救命救急センターと手術室との連携はスムーズで超緊急手術が施行されています。

2022年1月、当院は「日本医療機能評価機構 病院機能評価 一般病院3」に認定されました。これは「患者が安心して医療を享受でき、職員が働きやすく、地域に信頼される病院づくりに貢献する」という最も厳しいとされる評価項目で、特に指摘事項なく認定を受けることができました。2021年には米Newsweek誌のベストホスピタルに大阪医科大学病院として選出され、2022年にも同誌のベストホスピタルに大阪医科薬科大学病院として選出されています。

われわれ職員一同は、「社会のニーズに応える安全で質の高い医療を皆様に提供するとともに、良識ある人間性豊かな医療人を育成します」という本院の理念のもと、一丸となって日々努力し、患者さんとご家族に安心と安らぎを与えられる病院を目指しています。当院が三島医療圏の最後の砦となるべく、患者さんを24時間迅速に受け入れて行きたいと思っております。よろしくご支援を賜りますようお願い申し上げます。



大阪医科薬科大学病院  
病院長 南 敏明

# 超スマート医療を推進する大学病院

すべての施設利用者のストレスが  
軽減される病院

時代の変化に柔軟に対応可能で、  
継続的に質の高い医療を  
提供できる病院

次代を担う人材育成が  
実現可能な病院



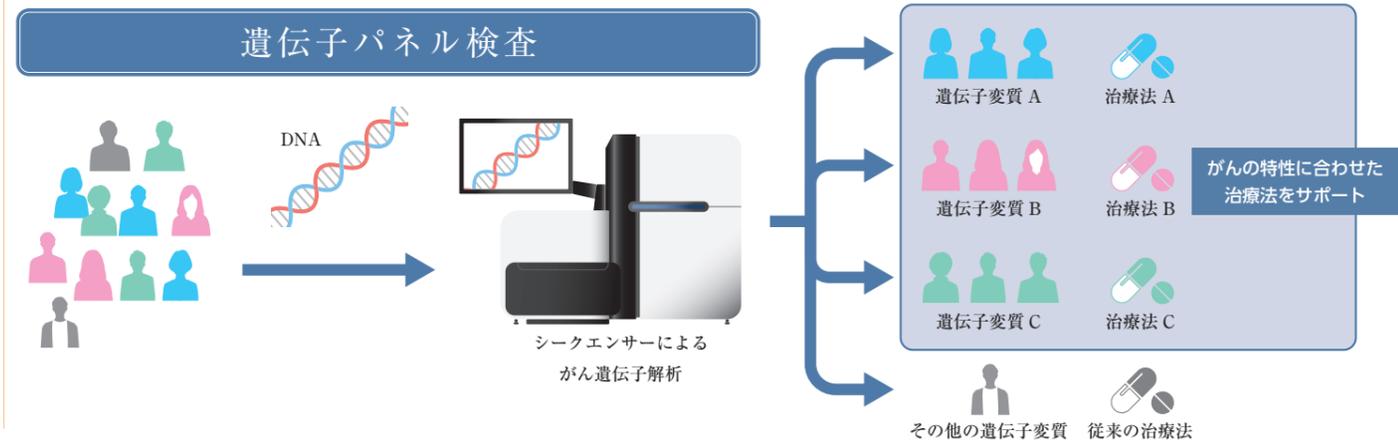
## セキュリティシステム

レベル0からレベル3までの4つのセキュリティレベルを設定しています。  
患者さんはリストバンドのバーコード、お見舞いに来られた方はスタッフステーションで発行するQRコードで病棟を出入りします。



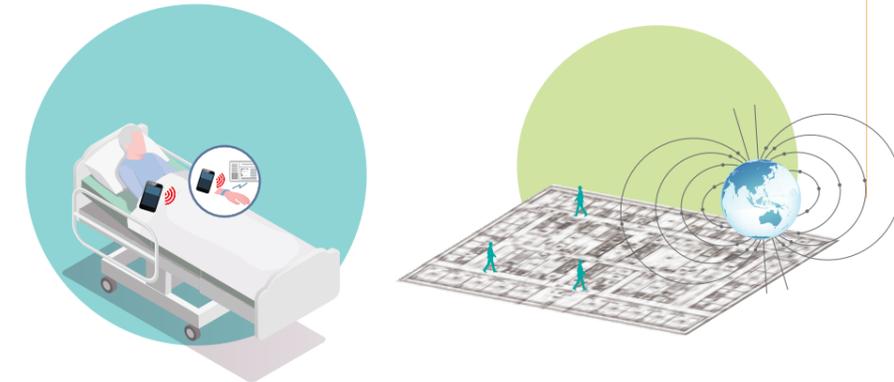
# プレジジョン治療

12階にがんゲノム医療を担う「遺伝カウンセリング室」を設置。  
各診療科と連携して遺伝子パネル検査を行い、一人ひとりに合わせたプレジジョン治療を行います。



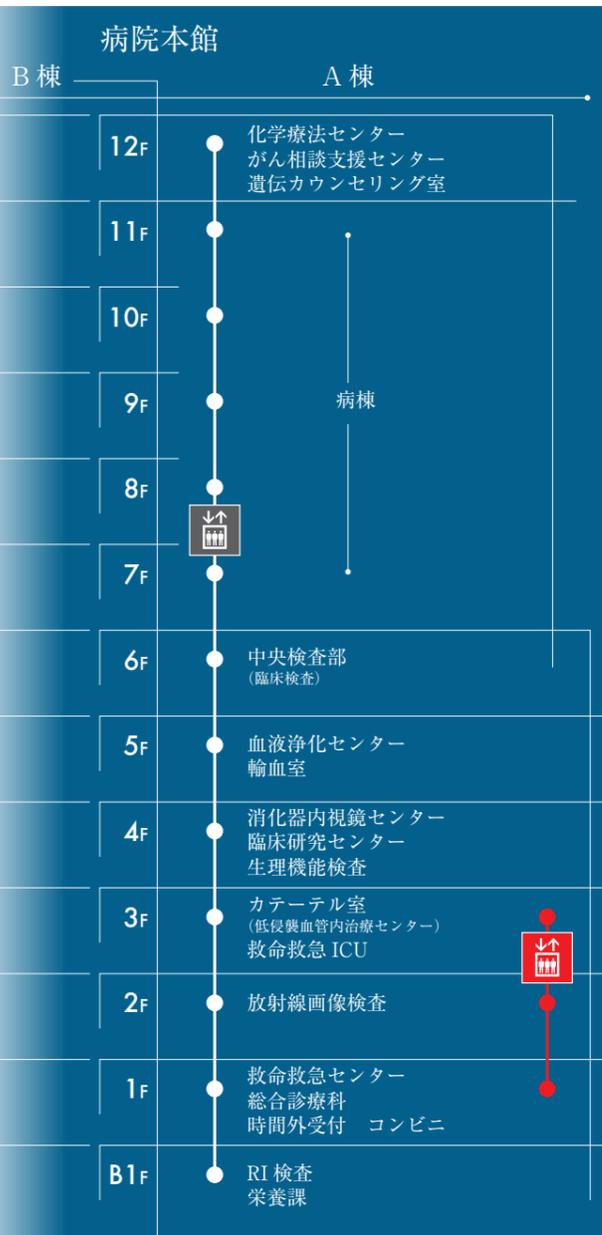
## ICT

将来構想として地磁気技術を活用した位置情報取得、感染防止対策への応用、ICチップ付きリストバンドによる患者さんの離棟情報の取得など、ICTの活用により患者さんの負担軽減や間違いを防ぎます。



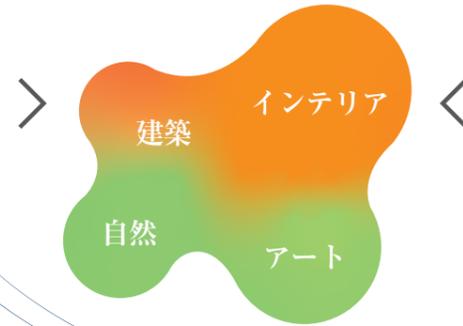
## 人材育成

病棟スタッフエリアや血液浄化センターなどには、臨床実習を行う学生が多職種と交流できるスペースを設けています。また輸血室には実習スペースも設けています。特定機能病院での症例を学び多職種との意見交換ができる環境を整え、高度な医療を支える人材を育成します。



# Art Theme

自然・建築・インテリア・アートの  
それぞれをシームレスに繋ぐことで  
人の感覚に寄り添うデザイン

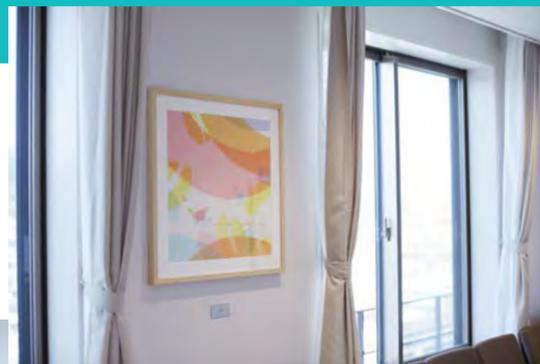


自然と触れ合うことで  
健康や幸せを得られる空間を目指す

癒しや温もりを感じる  
親しみあるアートの力で  
「心地よい環境」の提供を目指す

## 待合 緊張を和らげる

待合のアートには、外来の患者さんの治療や検査前の不安や緊張を和らげる役割があります。  
美しい色彩の抽象的なアートによって環境を整えています。



## スタッフエリア ホットと一息をつけ気分転換を促す

クスノキは樟脳が採れる薬の木として昔から人々に大切にされてきました。病棟スタッフエリアには、スタッフをクスノキに集まる鳥として表現したアートを設置しました。  
医局ラウンジには、親しみのある高槻市のイベントであるジャズストリートや街並み、地図などをテーマにインテリアの家具や内装のトーンとも調和させながら、空間全体でリラックスした雰囲気を生み出しています。



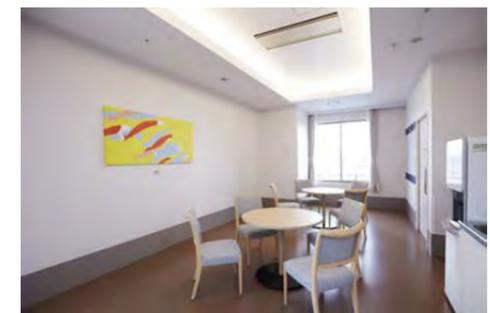
## 病棟 地域の自然

高槻市は歌枕の里として多くの和歌や俳句に詠まれてきました。  
三島江は、「日本書紀」や「万葉集」に多く登場し、三箇牧小学校横の「絆の道」には「百人一首」の歌人27人40首におよぶ歌碑が設置されています。  
玉川の里もまた平安時代から多くの和歌に詠まれ、歌枕の「ウノハナ」は高槻市の花に指定されています。  
高槻市にある伊勢寺は、平安時代の女流歌人36歌仙のひとり伊勢姫のゆかりの寺で、伊勢姫の作風に憧れて、古曾部に移り住んだ能因法師もまた多くの和歌を残しました。  
このように、この地にまつわる和歌や俳句をヒントに、高槻市の古の自然を今に感じることでできる身近な花を選定し、病棟フロア各階に春夏秋冬の流れに沿って展開しました。

11F	秋	8月~10月	ハギ (マメ科) <i>Lespedeza thunbergii</i> 効能: めまい、のぼせ (婦人)	萩の月ひとへに飽かぬものなれば 涙をこめてやどしてぞみる (伊勢集/伊勢)	萩谷総合公園	
10F	夏	6月~7月	クチナシ (アカネ科) <i>Gardenia jasminoides</i> 効能: 消炎、利尿、止血、鎮静、鎮痛	瑠垣にくちなし染めの衣きて紅葉に まじる人や祝り子 (新勅撰/能因法師)	神峯山寺	
9F	夏	5月~6月	ウノハナ (ユキノシタ科) <i>Deutzia crenata</i> 効能: 利尿作用	見渡せば波のしがらみかけてけり 卯の花咲ける玉川の里 (後拾遺和歌集/相模) うのはなや暗き柳のおよびごし (芭蕉句/松尾芭蕉)	玉川の里 ※高槻市の花	
8F	春	3月~4月	サクラ (バラ科) <i>Cerasus Mill.</i> 効能: 解毒、鎮咳、去痰	見る人もなき山里のさくら花 ほかのちりなむのちぞさかまし (古今和歌集/伊勢)	摂津峡・芥川桜堤 新川桜堤	
7F	春	2月~3月	ウメ (バラ科) <i>Prunus mume</i> 効能: 解熱、鎮咳、去痰、止瀉	ねやちかき梅の匂ひに朝な朝な あやしく恋のまさるころかな (御拾遺集/能因法師)	上宮天満宮 高槻城公園 加賀山 (高槻盆梅展/2月)	



4床室には患者さんに寄り添うスタッフや家族をイメージした花束と動物のアート。



# 1F

## 救命救急センター

北摂地域の一般病院で治療が難しい心筋梗塞や脳卒中、また事故等による重度な外傷など、生命に危険がある重症患者さんに対し、初期の高度治療を専門に行う救命救急センターを設置。

救命救急センターには一般撮影室・救急撮影室・CT検査室及び手術室を備え、検査と治療を合わせて迅速に行うことができます。



24時間断らない



感染症  
対応エリア

通常  
対応エリア

1F

「感染症対応」と「通常対応」をゾーニングし、  
救急医療を継続します

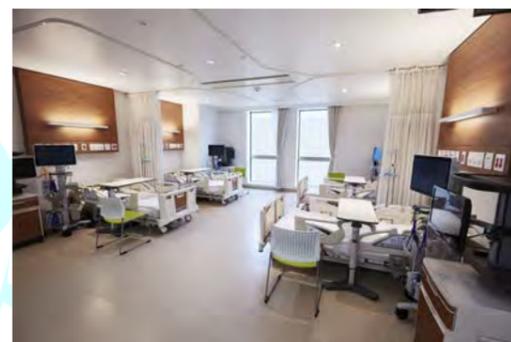
通常  
対応エリア

感染症  
対応エリア

1階の救命救急センターと3階の救命救急ICUを結ぶ専用エレベーター



3F



# 3F

## 救命救急ICU

1階の救命救急センターから3階の救命救急ICUへは専用エレベーターで患者さんを搬送することができます。中央手術棟とも同じ階で直結されており、移動による患者さんの負荷は極めて少なく、救命率の向上につながります。

# B1F

## RI検査



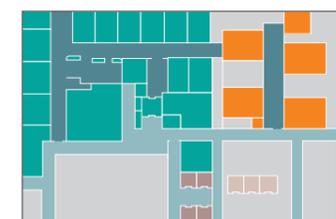
高画質なデジタルガンマカメラ装置を2台設置し、診断を行います。

# 3F

## カテーテル室 (低侵襲血管内治療センター)

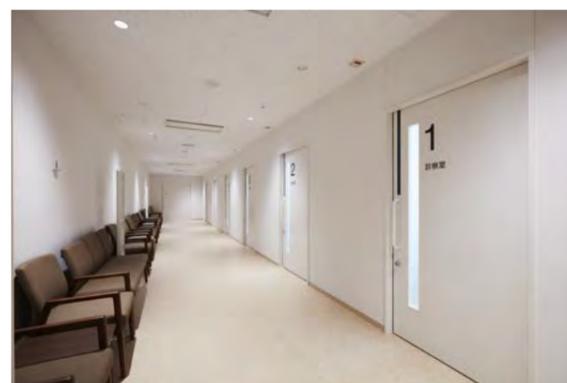


4台のANGIO (血管造影装置) を設置し、検査や血管内治療を行います。



# 1F

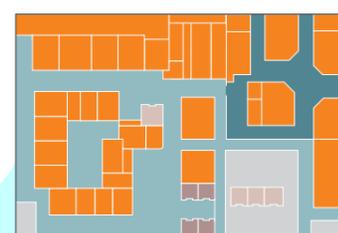
## 時間外受付 総合診療科



# 2F

## 放射線画像検査

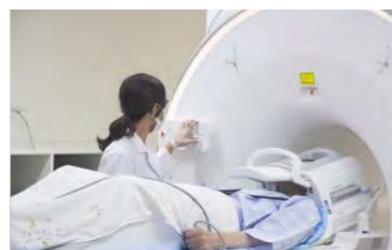
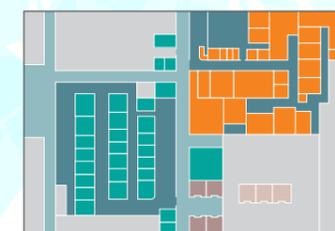
MRI (4室) とCT (4室) を含む計20室の検査室を設け、迅速かつ正確な画像診断に基づいて、疾病の早期治療につなげます。



# 4F

## 消化器内視鏡センター

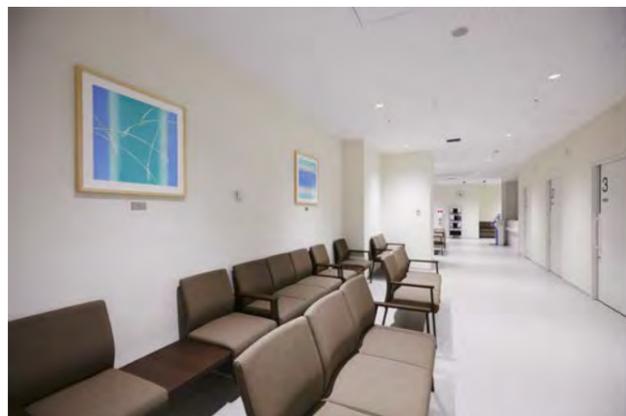
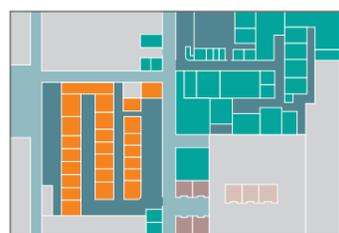
消化器疾患に対する診断精度の高い検査と治療を行います。



# 4F

## 生理機能検査

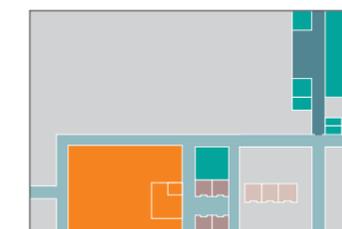
22の検査室で心電図や超音波検査などを行います。



# 5F

## 輸血室

16人の輸血認定看護師を含めたチーム医療で、安全に輸血を行うための検査と血液製剤の保管管理をし、当院の輸血医療全体を支えています。



# 5F

## 血液浄化センター

個室2室を含む15床の採光を多く取り入れた空間で、維持透析療法のみならず、幅広い疾患を対象に血液浄化療法を行います。センター内には学生室も設け、高度な医療を支える人材を育成します。



# 5F

## 医局

5つの医局がひとつになった総合医局は、診療科の垣根を超えたチーム医療を推進します。医局ラウンジには、高槻市の街並みをモチーフとしたアートを採用し、ホッと一息つける空間で気分転換を促します。



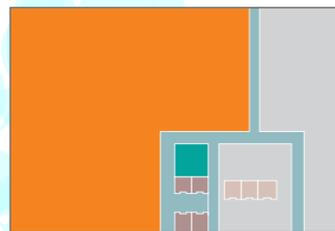


# 6F

## 中央検査部

(臨床検査)

各診療科の血液・止血検査、化学検査、一般検査、微生物検査などの検体検査を一手に取り扱っています。



# A9 病棟



病棟ラウンジ



スタッフステーション



4床室

8階と10階の病棟には、リハビリテーションスペースを設けています。これにより、状態に応じて早期から継続的にリハビリを行うことによって、早期離床を目指すことができます。

11階には血液がん治療のための無菌病室（個室6室・4床室2室）を設けています。

バイオフィリアのコンセプトに則った木調や自然の内装や、病棟内にアートを配置しました。またスタッフステーションにはビタミンカラーをベースに地域の植物を大きく配することにより、生命力を感じさせると同時に柔らかさを取り入れ、患者さんやスタッフに安らぎを与えます。

# 7~11F 病棟



リハビリテーションスペース



SHCU



無菌病室

スタッフエリアにはクスノキに集まる鳥たちをモチーフとしたアート



# 12<sup>F</sup>

## がん医療総合センター

12階にはがん医療総合センターとしてがん診療の機能を集約。

「化学療法センター」では北摂の山並みを眺めながら治療を受けることができます。またロボット調剤の導入により、薬剤師への抗悪性腫瘍薬の曝露を低減するなど調剤作業の負担を大きく減らし、調剤過誤を未然に防ぐことも期待されます。

「がん相談支援センター」ではがん専門の相談員が内容に応じて相談に対応します。

がんゲノム医療を担う「遺伝カウンセリング室」では各診療科と連携して遺伝子パネル検査を行い、一人ひとりに合わせたプレジジョン（個別化）治療を行います。

